

四次総から五次総へのつながり

第四次総合計画の振り返り

【総括評価】

- 変化に対応するためのハード・ソフト両面における基盤づくりが進んだ
- 急激な人口減少を避けるために対策を強化したが、減少のスピードを遅らせることができなかった

まちづくり方針別の評価(抜粋)

A「住む人が誇り、だれもが訪れたいまち」

- ⇒世界遺産、夜景、都市景観など都市個性を磨く取り組みを推進
- ⇒出島メッセ長崎や新幹線、スタジアムシティプロジェクトなど訪問客受け入れのための基盤整備を推進
- ⇒長崎市版DMOの立ち上げ

B「平和を願い、求め、つくるまち」

- ⇒「被爆者のいる時代の終わり」が迫るなか、遺構保存や人材育成など被爆の実相を次世代に伝える取り組みを推進
- ⇒平和活動のすそ野のさらなる広がりが望まれる

C「活力に満ち、発展し続けるまち」

- ⇒水産農林業の経営基盤改善の取り組みを推進
- ⇒地元企業の経営強化の取り組みへの支援
- ⇒IT関連企業等の企業誘致の進展及び雇用の創出

D「環境と調和する潤いのあるまち」

- ⇒市民主体の活動拠点である「サステナプラザながさき」を開設するなど、市民の環境意識の広がり
- ⇒自治体新電力「株式会社ながさきサステナエナジー」を民間と共同設立するなど、再生可能エネルギーの地産地消に向けた取り組みを推進

E「安全・安心で快適に暮らせるまち」

- ⇒「ネットワーク型コンパクトシティ」実現に向けた新たな都市基盤の整備推進
- ⇒都市のコンパクト化が加速する一方で、都市部における住宅の分譲・賃貸価格の上昇や賃貸住宅不足、空き家の増加などの問題が生じている

F「人にやさしく、地域でいきいきと住み続けられるまち」

- ⇒地域包括ケアシステムの構築、障害者などへの自立支援、結婚、妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援等、だれもがいきいきと住み続けられるための取り組みを着実に推進
- ⇒出生数は一貫して減少し続けている

G「豊かな心を育むまち」

- ⇒就学援助、通学費の助成など経済的援助の拡大や、すべての市立小・中学校へのエアコン設置、学校の統廃合など教育環境の整備を推進
- ⇒生涯学習、スポーツ、芸術文化等を通じた仲間づくりや地域づくりなどのさらなる広がりが望まれる

H基本構想の推進(つながる+創造する)

- ⇒地域コミュニティを支えるしくみの構築と行政サテライトの再編成を実施
- ⇒長崎サミットや大学・企業等との連携協定締結など、「つながりと創造」を実践する機会が増加

時代の大きな流れ

- ・人口減少、少子化、高齢化の進展
- ・新型コロナウイルスの世界的な流行
- ・テクノロジーの急速な発展
- ・Society5.0の実現をめざす動き
- ・地球規模の気候変動と災害の激甚化
- ・SDGs達成をめざす動きなど



特に求められる視点

・社会経済の規模縮小、世代間のバランス崩壊などから生じる様々な問題を喫緊の課題と捉えて対応。

・変容する価値観(働き方やライフスタイルなど)に対応。個性を活かして選ばれる。

・新たな手法(進歩するテクノロジーや“つながり”など)で安全安心や暮らしやすさを実現。

・持続可能な世界の実現に向けた貢献。自律した都市経営。

【キーワード】

- ☞QOL(生活の質)
- ☞ダイバーシティ(多様性)
- ☞テクノロジー(科学技術)
- ☞サステナブル(持続可能)

第五次総合計画の着実な推進

(うまく進んでいることをさらに進める)

- 基盤を完成させ、その基盤を活かして市民の暮らしの質を上げるとともに、訪問客の満足度を向上させる(うまく進んでいないことを改善する)
- 急激な人口減少に歯止めをかけるための対策を強化する。

今後の方向性

- ⇒都市個性にさらに磨きをかける取り組みを推進
- ⇒住む人も訪れる人も安全快適に過ごせる環境の整備
- ⇒DMOを中心とした戦略的・効果的なプロモーションで新たな訪問客を獲得
- ⇒高付加価値のサービス提供などによる観光消費額の拡大

- ⇒「被爆者がいない時代」が現実となる被爆100周年を見据え、被爆者に代わり被爆の実相や平和への思いを伝える様々な取り組みを推進
- ⇒多くの人々が、それぞれの興味や関心のある活動を通して平和活動に関わられるよう、新たな手法を取入れ、日常に「平和の文化」を根付かせる

- ⇒持続可能な水産農林業に向けた取り組みへの挑戦
- ⇒産学官金の連携や誘致企業と地元企業の協業による新産業の創出
- ⇒新産業の創出、企業誘致、創業の促進等による若い世代に選ばれる雇用の創出と安定的な雇用の確保

- ⇒持続可能な社会の実現に向けた取り組みの推進
- ⇒官民連携のもと再生可能エネルギーのさらなる利活用・地産地消の推進・拡大

- ⇒大型事業等の完成と、その活用による暮らしやすさの向上、賑わいの創出、経済の活性化
- ⇒公共交通機関や道路、情報などのネットワークの強化による地域にあった暮らしやすさの向上
- ⇒住宅の選択肢を増やす取り組みとともに、人と環境にやさしく、災害に強い、安全・安心な住環境を作る取り組みを推進

- ⇒地域包括ケアシステムのさらなる推進や、民間団体の積極的な参画の促進などにより、様々な課題を解決することに、より一層力を入れる
- ⇒結婚、妊娠、出産、育児をまち全体で応援し、切れ目のない支援の充実を図る

- ⇒Society5.0時代に必要な情報活用能力の育成と長崎のまちを支える担い手を育てる長崎市独自の取り組みの充実
- ⇒新たな文化施設などのハード面の充実とともに、人と出会い、つながるような流れを創出し、生涯を通じていきいきと学び、楽しむことができる仕組みをつくる

- ⇒長崎市よかまちづくり基本条例に定める「情報の共有」「参画」「協働」の基本原則に基づき、あらゆる主体が連携し、多様な地域課題の解決につながるよう、時代の変化に合わせた、まちづくりに参加しやすい仕組みづくりを引き続き推進

世界都市
★
人間都市